

執筆者紹介

埋田重夫（静岡大學學術院人文社會科學學領域教授）

高橋良行（教育・総合科學學術院教授）

土佐朋子（東京醫科齒科大學准教授）

大森信徳（法學學術院准教授）

伊藤令子（京都大學博士後期課程在學中）

辻リン（法學學術院准教授）

中村優花（文學學術院助手）

鱒澤彰夫（大東文化大學外國語學部非常勤講師）

古屋昭弘（文學學術院教授）

荒木典子（首都大學東京人文社會學部准教授）

高山亮太（博士後期課程在學中）

野原將揮（成蹊大學法學部准教授）

千葉謙悟（中央大學經濟學部准教授）

平田眞一郎

秋谷裕幸（愛媛大學法文學部教授）

編集後記

◇ 『中國文學研究』第四十四期をお届けする。投稿者各位、査讀を擔當された會員各位、印刷所の關係者各位に篤く御禮申し上げます。

◇ このたび、二〇一九年三月を以て古屋昭弘教授が退職される。二〇一七年度總會で承認された通り、本學中國語中國文學コース専任教員の退職にあたって本誌紀念號の刊行はしないとの申し合わせにより、古屋教授の「自訂略年譜・論著目録」の掲載のみとした。御諒解いただきました。

◇ 昨年度の稲畑耕一郎教授（現早稻田大學名譽教授）に續き、今年度また古屋教授を見送る側としては大変に寂しい思いであるが、世代が移り行くのも世の習い、良きものの繼承と活用、そこから生まれる更なる發展をこえて、去られる方は望んでおられると思う。それは今號の内容にも目ずと反映されているであろうし、また、そうした學術の新陳代謝の場を提供し続ける本誌でありたいと願っている。

◇ 新しいものというものは、既存のものがあってこそ生じる。今までになかった新しいものは、今までにあつたものの存在によって、新しいと規定しうるからだ。あるいは、私たちは先人の積み重ねてきた山の上に、さらに高くなれと、また石を積み、土を重ねる。ただ一つの石、一握りの土では山の高さはさほど變わらないであろうが、土石を積み重ねれば、山はさらに高く、そして形を變えていくであろう。そしてその行爲は、確固とした土臺があつてこそ成り立つはずである。

◇ 早稻田大學中國文學會はまだ五十年に満たない學會ではあるが、それでも、されど五十年である。創設期の先生方とうに早稲田を去られ、その先生方に直接教えを受けた世代が退職の時期を迎えつつあり、さらにその教え子が全国各地で次の若い世代を育成している。本誌はそうした會員諸氏によって扱じられる熱意溢れる一石を、今後もしっかりと受け止め、積み重ねていく土臺でありたい。まずは、目前にある五十期を目指して、今後とも會員諸氏のご支援を願う次第である。

（柚梅）

中國文學研究 第四十四期

2018年12月25日 發行

□編集發行者 早稻田大學中國文學會 〒162-8644 東京都新宿區戸山1-24-1
早稻田大學文學部中國語中國文學研究室内 □印刷所 正文社

wasedaunichibun@gmail.com

ISSN 0385-0919 振替東京 00140-5-22836